

# 調達部門レポート - 主要部品A供給遅延リスクに関する報告

日付: 2025年3月5日 報告者: 吉田 聡 (サプライチェーン管理部 部長) 対象部品: 製品X主要部品A 対象供給元: E国 (XYZ社)

## 1. 報告概要

製品Xの製造に不可欠な主要部品Aの供給元であるE国において、政情不安が顕著に高まっており、これにより部品の供給遅延および供給途絶のリスクが深刻化しています。この状況が続けば、製品Xの生産計画に重大な影響を及ぼし、ひいては売上目標達成にも支障をきたす恐れがあります。本レポートでは、現状の分析と今後の緊急対応策についてまとめます。

## 2. E国の政情不安と部品A供給への影響

### 2.1. E国の現状

- 政情不安の激化:** 2025年2月下旬より、E国内で政府に対する大規模なデモやストライキが頻発しており、一部地域では治安の悪化が報告されています。
- 交通・物流網への影響:** デモやストライキによる道路封鎖、港湾施設の機能不全、労働力の不足などが発生しており、国内の物流網に大きな混乱が生じています。
- エネルギー供給の不安定化:** 一部の工場では電力供給が不安定になり、稼働率が低下しているとの情報も入っています。

### 2.2. 部品A供給元 (XYZ社) の状況

- 生産状況:** XYZ社からの報告によると、デモの影響で一部の従業員が出勤できず、また原材料の調達にも支障が出ているため、生産ラインの稼働率が通常の80%に低下しています。
- 出荷状況:** 工場から港までの輸送ルートが不安定化しており、通常の出荷スケジュールに遅延が発生。すでに、当社向けの3月分の出荷の一部が1週間遅延する見込みとの連絡がありました。
- 在庫状況:** XYZ社の工場内在庫は減少傾向にあり、このままでは数週間以内に部品Aの生産停止に追い込まれる可能性も示唆されています。

### 2.3. 当社への直接的影響 (予測)

- 製品X生産計画への影響:**
  - 3月中の部品Aの供給遅延により、製品Xの3月下旬から4月上旬の生産計画が最大で20%下方修正される可能性があります。
  - これにより、顧客への納期遅延が発生し、顧客満足度の低下や契約違反のリスクが生じます。
- サプライチェーン全体の脆弱性露呈:**
  - 主要部品を単一の供給元、特に政情不安のある地域に依存していることの脆弱性が露呈しました。
  - これは、今後の部品調達戦略において抜本的な見直しが必要であることを示しています。
- コスト上昇のリスク:**

- 緊急性の高い代替調達が必要となった場合、通常よりも高い価格での部品調達を余儀なくされる可能性があります。
- 航空便などの高コストな輸送手段への切り替えも検討する必要があるかもしれません。

### 3. 懸念事項とリスク評価

- **生産停止リスク (高):** 政情不安の長期化や悪化により、XYZ社の生産が完全に停止するリスクが極めて高い。
- **納期遅延と機会損失 (高):** 製品Xの生産遅延は、販売機会の損失に直結し、売上目標達成を困難にする。
- **ブランドイメージ低下リスク (中):** 顧客への納期遅延や製品供給の不安定化は、当社の信頼性やブランドイメージに悪影響を及ぼす可能性がある。
- **コスト増加リスク (中):** 代替調達や緊急輸送によるコスト増加は、製品Xの利益率を圧迫する。

### 4. 今後の対策案 (緊急・中長期)

#### 4.1. 緊急対策 (短期: 1ヶ月以内)

##### 1. XYZ社との密な連携強化:

- XYZ社との週次ミーティングを毎日開催し、生産・出荷状況、現地情勢に関する最新情報をリアルタイムで共有する体制を構築する。
- 現地の輸送パートナーとの連携も強化し、最短ルートでの部品輸送を確保するよう交渉する。

##### 2. 代替部品の緊急評価:

- 品質保証部門および製品開発部門と連携し、部品Aの代替となりうる部品（国内・他国サプライヤー）の緊急評価を行う。品質、価格、供給リードタイムを迅速に評価する。
- 短期的には、既存製品の一部仕様変更も視野に入れる。

##### 3. 社内在庫の確認と最適化:

- 部品Aの社内在庫（工場、倉庫含む）を再確認し、製品Xの生産ラインへの供給を最優先するよう在庫管理部門に指示する。
- 他製品との部品共有がある場合は、部品Aの優先度を見直す。

##### 4. 顧客への情報共有準備:

- 万が一、納期遅延が発生した場合に備え、営業部門と連携し、顧客への影響を最小限に抑えるための情報共有体制と文面を準備する。

#### 4.2. 中長期対策 (3ヶ月～1年)

##### 1. 複数供給元からの調達体制確立:

- E国以外の地域（例：東南アジア、国内）で、部品Aを供給可能な新規サプライヤーを複数選定し、サプライヤー分散を図る。
- 新たなサプライヤーとの契約交渉を加速させ、早期の調達開始を目指す。

##### 2. 部品設計の見直し:

- 製品開発部門と連携し、部品Aに過度に依存しない、より汎用性の高い部品設計への見直しを検討する。これにより、将来的な供給リスクを低減する。

##### 3. リスクマネジメント体制の強化:

- サプライチェーン全体のリスクマップを作成し、各部品の供給リスクを定期的に評価する仕組みを導入する。
- 地政学的リスクが高い地域からの調達については、常に代替供給元を確保しておく方針を確立する。

#### 4. 戦略的備蓄の検討:

- 主要部品については、一定量の戦略的備蓄（バッファ在庫）を設けることを検討する。初期投資は必要だが、緊急時の生産停止リスクを大幅に低減できる。

### 5. 次回報告

本報告書に基づき、来週開催予定の緊急調達戦略会議にて、上記の対策案の詳細と実行計画について議論し、早急に承認を得て実行に移します。

---

以上